

小児外科	
診療科目：小児外科	
診療科担当研修責任者名： 木下 義晶（小児外科診療科長） 診療科連絡先担当者名： 小林 隆（小児外科エデュケーショナルマネージャー）	
受入期間：1ヶ月以上	同時受け入れ可能数：2人以内
◇◇学会認定専門医数◇◇	
日本小児外科学会専門医4人、日本外科学会専門医5人、日本小児泌尿器科学会認定医1人、日本小児血液・がん学会小児がん認定外科医1人、日本周産期・新生児医学会認定外科医1人、日本がん治療認定医2人、日本移植学会移植認定医1人、日本消化器外科学会専門医1人、日本肝臓学会専門医1人、日本再生医療学会認定医1人	
◇◇学会認定指導医数◇◇	
日本小児外科学会指導医1人、日本外科学会指導医2人、日本消化器外科学会指導医1人、日本膵臓学会指導医1人、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医1人	
診療科の概説・特徴	診療科研修の特徴
当科の歴史は、新潟大学外科教室の中に小児外科研究班が生まれた昭和45年に遡ります。その後昭和56年に診療科が付属病院に開設され、それから10年間の診療実績が評価され平成 3年に小児外科学講座として独立し現在に至っています。国公立大医学部で小児外科単独で講座を有するのは10大学しかなく、その1つとして当科は本邦の小児外科の臨床・研究に大きな業績を上げてきました。 過去 40年以上にわたる豊富なデータを有し、過去の実績に基づいた確かな診療を行う一方で、内視鏡手術など最先端の手術手技を導入し更なる発展を見せています。また他科の小児診療チームとの連携も確立しており、総合的な小児医療を学ぶことができます。 小児固形悪性腫瘍の治療では、Niigata Tumor Boardを40年前からたちあげ、新潟県全体で統一した治療を行い、良好な成績をおさめています。また周産期医療、先天性泌尿生殖器疾患においても多診療科での検討会を定期的に行い、治療レベルの向上に務めています。	小児外科は、原則として一般小児外科研修を基本とし、その他新生児診療・小児救急疾患への対応等を広く研修できるシステムになっています。短期間の研修であっても、小児外科だけでなく外科的周術期管理の考え方、検査の目的と異常所見の意義について理解することができます。また、毎日、指導教官、研修医で行う朝カンファレンスに参加することで各症例の病状プレゼンテーション能力をトレーニングすることができます。かつ腹部、胸部X線写真、CT、MRI、各種造影検査、シンチグラフィー等の臨床医として必須の画像検査を全員でディスカッションすることで、画像 診断能力も高めることができます。手技的な実地研修においては、比較的容易な手術の執刀、小児外科手技の修得の他、日常診療の中で乳幼児の採血、静脈ルート確保等、将来の専門分野に関わらず、臨床医としての必要技能をスキルアップできると思います。